厚生文教常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和6年4月23日（火）午前10時0分
- 2 閉会日時 令和6年4月23日（火）午後0時6分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
1番 牛尾 直人君 2番 鼻岡 美保君 4番 永徳 省二君
5番 大森 進次君 6番 光成 良充君 10番 原田 素代君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
保健福祉部長 遠藤 健一君 社会福祉課長 富山 雅史君
- 7 参考人
岩本 武明君
- 8 事務局職員出席者
主 幹 青木 智彦君 主 幹 岡野 哲浩君
- 9 協議事項 1) 社会福祉協議会補助金に関する事務調査について
・パワーハラスメント実態調査アンケート調査結果について
・その他 調査に必要な事項
2) その他

午前10時0分 開会

○委員長（光成良充君） ただいまから厚生文教常任委員会を開会いたします。

本日は閉会中の委員会でございますので、市長、副市長、教育長には出席を求めておりません。御了承お願いいたします。

また、換気のため、会議室の窓は開けたまま進めさせていただきたいと思っておりますので、御協力をよろしくをお願いいたします。

最初に、社会福祉協議会の補助金に関する事務調査ということで、一連の流れについて執行部より経緯の報告という形でお願いいたします。

○保健福祉部長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 遠藤部長。

○保健福祉部長（遠藤健一君） まず、お手元に本日資料をお配りしておりますものについて御確認をいただきます。3月14日、3月議会の閉会日でございますが、この日に一般会計の予算のうち、社会福祉協議会の補助金8,754万3,000円について、予備費へということで修正の議案が可決されておまして、それを受けまして市長名で社会福祉協議会の会長宛てに一連の問題について、1番、パワーハラについて、2番、残業代の未払いについて、3番、職員の給与規程についてということで、こういうことについての問題の解消を求めるといふことの議決の内容を受けて、この改善策について早急に文書での回答を求めたところでございます。

資料、次のページへ行っていただきまして、これを受けて社会福祉協議会から、3月29日付で、実際には4月1日に副会長と事務局長のほうで市長に面会に来られまして、市から発出された事項についての回答ということで回答をいただきました。その内容につきましては、1番としてパワーハラスメントにつきましては、アンケートを実施した結果、事務局から独立した立場で詳細に調査することが必要ということを判断したので、その方向へ向けてやっていきたいということを書かれています。

それから、2番の残業代の未払いにつきましても、これは労務管理の観点から絶対にあってはならないということで、現在のところ、未払いについての確認は取れていないけれども、調査委員会で調査をしていきたいと、適切に対応していくということ。

それから、3番目の定年後の給与についてということにつきましては、定年後再雇用した職員及び定年を延長した職員について、昇給を行わないことなどを内容とする規定の一部改正について、理事会に諮っていきたいというような内容でございました。

いずれにしても、まだこの時点では具体的なものにもう少し欠けるかなというところがございますので、また資料を1枚おはぐりいただきまして、最後の資料ですけれども、4月17日付をもって、再度市長から社会福祉協議会の会長宛てに再通知ということで本文の中にもありますとおり、具体的な改善策についての記載が今のままではちょっと乏しいということで、中間報告と位置づけることと判断をさせていただいております。つきましては、早急にと

ということで書類の再提出を求めているところでございます。

この再通知の報告の依頼事項というのは、この3点についてですけど、1番のパワハラについては、調査委員会の設置時期や調査の着手時期等についての具体的な報告、残業代の未払いについても、適正管理の手法についての具体的な報告、それから3番目の定年後の給与についても、同じように具体的に内容と経過措置などの具体的な時期、こういうものを報告いただきたいということで再通知させていただいているところが現状でございます。

なお、社会福祉協議会では3月18日に臨時の理事会、こちらのほうを開催され、それから3月25日に評議員会を開催されて、当面市のほうが凍結になっている資金について内部的に運転資金の中から調整をされて、4月以降の事業について開始をされているというのが現状でございます。

以上でございます。

○委員長（光成良充君） ありがとうございます。この件については、よろしいですね。今の経過の方向について、質問はよろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（光成良充君） それでは、協議事項に入ります。

1番目、社会福祉協議会補助金に関する事務調査についてという件でございます。

これにつきましては、さきの4月19日開催の厚生文教常任委員会におきまして、参考人として赤磐市社会福祉協議会の岩本武明事務局長及び井本永実子事務局次長の招致を決定し、委員会への出席要求をさせていただきました。本日は、参考人として岩本事務局長の出席を得ております。また、井本事務局次長は業務調整がつかず、欠席との申出がございました。岩本事務局長におかれましては、本日はお忙しい中、本委員会に出席いただきまして誠にありがとうございます。委員会を代表しまして、心からお礼を申し上げます。

それでは、協議に入りますが、参考人に対して前もって意見を求める事項が出ておりますので、その件について発言をしていただきます。

なお、参考人につきましては、委員長の許可を得てから発言をしていただきますようお願いを申し上げます。発言の内容は、意見を求められた事項の範囲を超えないようお願いしたいということと、委員に対して質疑ができないということになっておりますので御了承いただきたいと思っております。

では、1番目の市からの補助金等の用途について、1つ目、パワーハラスメント実態調査アンケート結果について、委員のほうから質疑がございますか。

○副委員長（永徳省二君） その前にいいですか。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） そもそも、岩本事務局長と井本事務局次長に出席をお願いしたのにもかかわらず、井本事務局次長が今回欠席されていると。ある意味井本事務局次長はキーパ

ーソンになる方であり、いろんなお話を聞きたかったんですが、なぜ今日来られなかったのか、社協には毎日のように出勤されているというふうに聞いているんですけど、なぜそこが今日来られなかったのかを詳しくお話しいただけませんでしょうか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 招集の依頼がございましたのが、4月19日の先週の金曜日でございました。本会も、4月30日の理事会等を控えましての資料作成等の業務が非常に多くございます。その中での要望ということで、業務調整がつかなかったということで、本日は参考人のほうとしての欠席をさせていただいたということが理由でございます。

○委員長（光成良充君） よろしいですか。

それでは、アンケート結果についての質疑を受けたいと思います。

今、お手元にパワーハラスメント実態調査アンケート結果っていう1枚物の表裏の用紙が配られていると思います。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 今日はお世話になります。

今、配付されたものですから、できればもうちょっと事前に資料は頂いていたほうがあらかじめ読んでおけたのにと思いました。

幾つか質問と併せて、ちょっと全体の話をしたいと思うんですけど、まず表面の3番のところ、提出件数は109件とありますが、これ分母は何件のうちの109件ですか。それを教えてください。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 全体のアンケートは115名の職員に対して行っております。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） パワハラについて、自身が受けた、もしくは見たり聞いたりしたっていう件数がやはりそれなりに普通の職場の中では通常ではない数が出てきているなと思っています。個別にいろいろ私も聞かせていただいて、これは委員長、これを根拠に説明を聞いてもいいんですかね。

○委員長（光成良充君） どうぞ。自分が持つとられる資料ならばそれで結構ですよ。

○委員（原田素代君） 委員は持ってらっしゃるんですけど、これは社協から生活支援課の中に19人の職員がいらして、平成29年度から令和5年度までの職員の退職状況が表になっているものを頂きました。これでいくと、19人のうちの10人が既に平成29年から令和5年度の間に半

分が退職されています。以前、井本事務局次長から、現場でいろいろ手が足りなくて職員の募集をかけてもなかなか集まらなくて苦労されているというのは聞いていたんですが、現場ではほぼ正規の方たちが、非正規が3人ぐらいいるのかな、ほぼ正規の方がこの短い期間に10人も辞めるってことはやはりかなり尋常じゃないと思います。それと、このパワーハラスメントの問題は当然リンクしていると思います。その辺の管理者としての感覚は、今回のアンケートの結果や、それからこれだけ大量の職員が退職している現状について、どんなふうに何が問題で、この問題がどれだけ深刻でどういう問題があるのかということについての見解をお聞きしたいと思います。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） お手元にお持ちの資料がどういった種類のものかわかりませんが、ただ先ほどの説明の中にありました平成29年度から19名のうちの10名が退職しているというのが現時点での退職者の数だと思いますけども、退職された職員の方の理由といたしましても、採用されてすぐに社会福祉協議会の業務自体が自分のイメージしていたのと違ってということでも早めに退職された職員の方もいらっしゃいました。このパワハラ調査をさせていただきました。現場としてはそういったようなこともあるということ、本会としても調査委員会を行いますけども、パワハラが直接のそれだけが原因ではないというふうな認識でおります。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） それだけが原因じゃないとおっしゃるけど、ここに数字が厳粛に出ているわけじゃないですか。パワハラを受けた方が18人、見たり聞いたりした方が29人、これ普通な数だと思いますか。ちょっと多いと思うんですが、いかがですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 今回のアンケートの回答につきましては、事務局長預かりということで、具体的な中身のものは理事会のほうにもまだ報告もさせていただいておりませんが、中身的に見ますと、これも調査委員会のほうでは出てくると思うんですけども、果たしてパワハラに該当するのかなっていうふうなところも、御本人とすればパワハラだというふうな認識でいらっしゃった回答も私の中では見受けられたのかなというふうな思いでございます。

したがって、本来のパワハラ定義に基づくパワハラというものも今後の調査委員会の中で明確になっていくと思いますので、そういったものを含めた数だというふうに認識いたしております。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 管理者である岩本事務局長がそういうふうな認識でいらっしゃるってことは、ちょっと私の印象は深刻だなと思います。アンケートの中でも、上司に相談した件数とか出ていますけど、実際岩本事務局長も相談をされているはずですよ。ここに相談したって書いてあるわけですから。本会の上司に相談した8件、それを相談されたときに岩本事務局長は今のよう思われたんですか。いや、それはパワハラじゃないだろ、あなたの思い込みでしよう、ということですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 相談をされたという8件でございますけども、これが全て私のところに相談があったかどうかは不明ではございますけども、お聞きした中では自分なりに判断して、相談があったときに関しましては適正な対処をしたというふうに思っております。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 職員の方からこういう話を聞いたんです。衛生管理者というのを置いてらっしゃいますね。その方が井本事務局次長だと聞いているんです。衛生管理者は置いてらっしゃって、産業医も一応契約上はいらっしゃると聞いていますが、面談を求める人がいないと聞いています。このアンケートの中でも、⑤本会の産業医に相談したのはゼロなんです。要するに、産業医に相談できる手だてがないんじゃないですかというのがまず1点。

それから、本来衛生管理者はストレスチェックなど衛生管理者としての業務があるのに、それについて一切公表されていないと、職場の中の保健師がそういうふうに訴えてらっしゃるんです。特に、ハラスメントが深刻な職場環境の中で、衛生管理者が産業医と協力しながらストレスチェックをしたり、具体的なハラスメントがあった場合のサポートが必要だったりっていうのがあると思うんですけど、そういうことは一切されてないということについてはどういふふうに認識されていますか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 先ほど、原田委員のほうがおっしゃられました衛生管理者、安全衛生管理者といいますけども、設置しています。また、産業医のほうも設置させていただいております。ここでの産業医への相談がないということは、パワハラに関しての相談がなかったということで、健康管理面とかの相談というのは産業医のほうで行っていただいておりますので、全く相談ができてないということではないです。

それからあと、産業医とストレスチェック等についてのチェックをしているのかどうかとい

うことですが、こちらのほうはチェックを行っております。相談しています。

○委員（原田素代君） 誰が誰に。

○参考人（岩本武明君） うちが産業医の先生にですね。

○委員（原田素代君） 衛生管理者が産業医の先生に、岩本事務局長が産業医の先生に。

○参考人（岩本武明君） 衛生管理者です。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 職員のほうから、ストレスチェックの結果は公表すべきものですが、公表されていませんという指摘です。していますとおっしゃった件は、例えば健康診断の結果についてのフォローの対応とか、そういうことを指してらっしゃるんですか。要するに、今私が問題にしているのはストレスチェックをはじめとして、衛生管理者が配置されているながら、その衛生管理者が実質的にはストレスチェックなどについてのやっているのか、やってないのかの公表をしてないということに問題があるのではないかと考えているのですが、いかがですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） やっているのか、やっていないのかというのは、ストレスチェックをやっているのか、やっていないのかということですか。

○委員（原田素代君） そうです。

○参考人（岩本武明君） もちろん、ストレスチェックは全職員に対してアンケート用紙を配付していますから、やっていることは職員とすれば認識されていると思うんですけども。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） ちょっと認識が違うんで、そこはまた別のところでやりましょう。

あと、熊山のほうの職員の方が何か2週間ほど入院されたと聞いています。これはもう専らストレスからくるもので、本当はもうちょっと入院していたほうが良いと言われたんですけども、職場のことを考えると入院を続けるわけにいかないのでは退院をしてきましたと。かなり、精神的にしんどい状況が続いているというふうに聞いています。こういう人がいるのに、何で衛生管理者や産業医にこの人がつながってないのか。まさに、入院までするような状態に陥っている職員がいるのに、つながってないのはなぜでしょうか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） ただいま御指摘がありました熊山職員の2週間入院したというのは、いつ頃の案件なのか。

○委員（原田素代君） 昨年みたいですね。

○参考人（岩本武明君） 昨年。

○委員（原田素代君） 課長です。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 熊山事務所には課長職は置いてないんですけども、ちょっとどなたなのかが分からないんですけど。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 岩本事務局長の中には、職員の方が2週間入院したことは事実として知らないんですね。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 入院もしくは病気休暇を出している職員のことは認識いたしておりますけども、熊山事務所に関してということになりますと、ちょっとどなたが対象なのかが分からないというところです。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） どなたか分かんないっていうのは、じゃ逆にどなたかは知っているわけでしょ。入院や病気になっている人がいることは御存じだということですよ。その人は、産業医や衛生管理者とつながっているのですか、つながってないのですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） つながっているかどうかということに関しましては、どういったような関係のことを指し示すのか、相談ができてないのかということでありましたら、それぞれ産業医が必要であれば相談もさせていただいているような環境は整っています。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 岩本事務局長は、現状の社協のシステムはきちんと機能しているという前提でお答えされているというふうに思うんです、こちらの質問に対して。だけれど、私が聞いているのは、言ってしまえば内部告発ですわ。職員の中で、こんなことがあって困っている、こんなことがあってひどい、こんなこと冗談じゃないっていう思いの皆さんが出てきたのがここから読み取れるわけですけども、それに対してできているっておっしゃる根拠が分からない。例えば入院された方はどこのどなたか分かってらっしゃるんだったら、教えてくださいよ。きっと、そんな2週間入院する職員は多くないでしょう。十何人、2週間入院する職員

が続いているんですか。そんなはずないですよ。本人から聞いたんですけど、要するに岩本事務局長はその事実を把握してないんじゃないですか。いかがですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 申し訳ございません。そういった2週間の入院というのが特定の職員、どなたかということはお名前も分かりません。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 確認しときますけど、管理者として、岩本事務局長は課長級の職員が精神的なメンタルで入院している事実を把握してないということがはっきり分かったというふうに確認したいと思います。答えは要りません。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） このアンケート結果を拝見すると、109件提出分のあなた自身がパワハラを受けたことがあるというのは18件、約2割弱です。クエスチョン4にあります上司から部下へというのが6件あります。裏面に行ってNo.6で、パワハラを見たり、相談を受けたことがあるというのが29件、クエスチョン7で脅迫、名誉毀損、侮辱、ひどい暴言、精神的な攻撃が20件ありますと、それからクエスチョン9で上司から部下へパワハラが18件で、明らかにこれ上司から部下というのが非常に多いんですけど、この上司っていうのはある特定の方に比較的集中しているのかどうか、お答えください。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 今回のこのアンケートにつきましては、無記名で回収させていただきました。どういった特定の方のお名前等がございまして、やはりそれにつきましては事務局長預かりということでさせていただいておりますので、ここでの発言は控えさせていただきたいと思います。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 具体的な名前はいいんですけど、ある方に集中しているのかどうか、全く分散しちゃっているのか、別にこれは個人情報でも何でもないので、そこをお答えください。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 特定の方に集中しているかというのが何件ぐらいとかっていう件数的なところもあろうかと思えますけども、特定の方の名前が出ている回答があったということは申し述べさせていただきます。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。
- 副委員長（永徳省二君） そこで、本会の上司に相談したというのが8名いらっしゃいます。恐らく、上司というのは岩本事務局長も含まれているというふうに当然思いますが、岩本事務局長自身はどれぐらい件数的に相談を受けたことがありますか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 正確な件数というものはございませんけども、数件は受けさせていただいたということです。全てではないということだと思います。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。
- 副委員長（永徳省二君） 数件というのは、二、三件ぐらいなのか、五、六件ぐらいなのか、10件ぐらいなのか、どれぐらいなのでしょう。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 先ほどの永徳副委員長の言われる回数でいくと、二、三回だと思います。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。
- 副委員長（永徳省二君） その二、三回は特定の方に限られていましたか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） それは、相談者の方という意味ですか。
- 副委員長（永徳省二君） パワハラ者。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 対象の方は数名の方になっていると思います。数名というのか、特定の一人だけではなくって、相談があったというふうに記憶しております。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） このアンケートだけの質問からちょっと外れるかもしれませんが、岩本事務局長が相談を二、三件受けられて、それに対してどのような対応をされたのか、具体的に教えてください。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 相談を受けた内容につきましては、相談者に返すように加害者というのか、パワハラをしたといわれる方に対しての確認をして御返事をさせていただいております。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） パワハラをした人に確認して、パワハラをしたとおっしゃられたのか、私はしてないとおっしゃられたのか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） パワハラの認識というのは様々あるということで、私もお話しして感じたところではございますけども、それがパワハラに該当するかどうかというのは、これからの調査委員会の中ではっきりしていくことだと思うんですけども、こちらの認識とすればパワハラに該当するかどうか分からないところもございましたけども、そういったようなことはやめてくれというふうなことをこういう申出があったからということでお伝えしてやめるような指導はさせていただきました。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 数名いらっしゃるようなんですが、数名の方に口頭だけで注意をされただけ、何らかの懲戒処分とか文書戒告とか、口頭以外でされたことはありませんか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 懲戒の中にも厳重注意という項目がございます。こちらのほうに基づきましての注意はさせていただきました。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 岩本事務局長が注意をされた結果がこのアンケートですよ。

注意をされたけど、収まらなかったから、この結果が今回のこのアンケートで出ていると思うんですけど、これをどのように考えられますか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） このアンケートにつきましては、この3年間でパワハラがあったかどうかということについてのお尋ねをさせていただいたわけですが、このアンケートの中身が私が相談を受けてお返ししたのも当然入っていると思うんですけども、それ以前のものがあるのか、そこら辺のことが不明なので、そういった内容での3年間のアンケート、パワハラにつきましては3年間のパワハラってということでアンケートを取らせていただきましたので、私が相談を受けた時期とずれというのはあるかと思えます。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。
- 副委員長（永徳省二君） 岩本事務局長が相談を受けられたのはいつですか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 相談を受けた日は、申し訳ございませんけど、記憶にございません。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。
- 副委員長（永徳省二君） 日にちまでは聞いていません。1年前ぐらいだったのか、2年前ぐらいだったのか、3年前ぐらいだったのか、それともこのアンケートは3年以内なんで、それ以前なのか、教えてください。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 私が相談を受けたのは3年以内だったと思います。
- 委員長（光成良充君） 他に。
- 委員（原田素代君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 原田委員。
- 委員（原田素代君） 岩本事務局長御自身がパワーハラスメントの定義とか、パワハラとはどういうものかということについて研修を受けたことはございますか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 研修のほうは受けたことがございます。
- 委員（原田素代君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 原田委員。
- 委員（原田素代君） いつ、それから過去何回ぐらい受けたのか、ちょっと私はそこまで聞きませんが、御発言の中にかなりパワーハラスメントについての理解が十分じゃないなっ

という印象を受けるんです。まず、その理由の一つに記憶がないとおっしゃったけど、そもそも記録してないですよ。ハラスメントの相談をされたら記録しなきゃいけないんです。何月何日、どなたからどういう内容だったのか、次には、じゃあその訴えについて、相手の方とのやり取りがいついつあってどういう理由だったのか、それをもとの訴えた方にいついつ返したのか、ハラスメントの相談受けたら必ずこれが必要なんです。記憶どころか、記録をしなきゃいけないんです。

それと、もうちょっと言うと、恐らく昨年1年以内の話ですけど、岩本事務局長に訴えたら、その人から謝ってほしいのって返されたら、ハラスメントの相談者がそんなこと言っちゃいけません。いじめに遭った子供に、いじめた子に謝ってほしいのっていうようになってないですね、今学校の先生は。いじめられたと訴えたらいじめられたんです。ハラスメントを受けたら訴えたらハラスメントなんです。岩本事務局長がそうじゃないと思っても、ハラスメントなんです。受けた側の基準なんです。それをきちんと記録して対応しなきゃいけないことをされてないということは、岩本事務局長御自身がこのハラスメント問題についての理解や認識が十分でないんじゃないかと思いますが、その点についてはいかがですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） そういう意味合いでのハラスメントに対する認識が不足していたのではないかという御指摘、私の中でもそういった面はあるのかというところは感じております。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） もう一人の上司でいらっしゃる事務局次長ですけど、この事務局次長も今私が申したような対応をされているのでしょうか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 対応というのが相談を受けたときの対応ということですか。

○委員（原田素代君） そうです、はい。

○参考人（岩本武明君） 事務局次長の相談に対する対応ということに関しましては、同じようにされていると思います。ちょっとそこまでの把握というのができてはいないのかもしれませんが、同じような対応をしているとは思っております。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 同じようなというのは、岩本事務局長と同じような対応と理解しているんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 私と同じ対応という認識でいます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 要するに、主たる管理者である2人がハラスメントについての認識がそういうレベルですと、訴える側は訴えても何も解決されないなという絶望感に打ちひしがれて、人によっては2週間の入院を余儀なくされているわけです。もっと言えば、19人のうちの10人が退職しているわけです。実は、ここに今日急に出していますけど、新年度に当たって職場の内情の訴えということで短いコメントをいただいています。皆さんお手元にありますけど、ここではこういうふうに書いてあるんです。新部署に異動した後、仕事の引継ぎをしてもらえるまで、古い体質のために事務長や課長を動かすのにエネルギーが要ります。自分の部署の仕事を把握してない課長、管理者を含め、危機管理能力の低さが目に余ります。平の職員が自己判断をして仕事をするのは日常になっています。新入職員にとって権限を持つ職員が壁になり、家風、要するに今の社協の体質のことですけど、合わない職員は辞めることになるという悪循環になっています。組織は腐っています。風穴が開くことを願っています。こういう訴えがあります。おまけに、今こういう職場の中でどれだけいい仕事ができるのでしょうかと思っているんですが、やはりそれがいい仕事になってないということが出てきています。ある地区の区長が怒って乗り込んできたそうです、社協の職員の対応が悪いって。要するに、職場の中が腐っているんです。だから、管理者も管理者、新入職員に対する指導もない。そういう中で、平の職員が自己判断をして仕事をしているので、当然現場の今まで社協と一緒に地域福祉をやってきた役員が怒るわけです。やることが違うってクレームが来ている。そのクレームに岩本事務局長が対応されて大変だったそうですね。この原因は、職場の中の非常に混沌とした中身が反映していると思われませんか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 社会福祉協議会は、地域の人に役立つような組織であり続けたいといけないということで日々の活動は行っていますが、区長が先ほどのクレームが来たというお話ではございましたけども、クレーム、いつのどういったような内容でお伝えされたのかが分からないんですけど、社協自体は先ほど言いましたように地域の皆さんの福祉のために頑張っていく組織であるということは認識しておりますので、異動等がございましたも地域の人に迷惑かけないように対応していくような対応させていただいているという認識でいます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 今の話はここ二、三日のうちです。昨日だったかもしれない。岩本事務局長が大変御苦勞されていると聞いています。忘れましたか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 申し訳ございませんけど、二、三日うちのクレームということ、クレームというのか、相談、申入れとかがあったとは思うんですけども、クレームがあったというふうな事実はないと思います。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 上司の方が部下の方からパワハラを訴えを受けたときに、それへの対応マニュアルというのは社協の中に存在しますか、しませんか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） パワハラを受けた際の相談マニュアルというのはございません。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） ということは、マニュアルがないということは、個人個人がそれぞれの独自の考えに基づいて対応されていると、ばらばらな対応だということと違っていいですね。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） マニュアルがございませんので、それぞれの先ほどの永徳副委員長のお言葉ですと、ばらばらな対応ということになるかと思えます。

○副委員長（永徳省二君） ありがとうございます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 第三者委員会の調査報告書は令和5年3月27日なんです、ちょうど1年前。1年たってこの4月、3月でようやくハラスメント問題とこの3項目、残業代未払いの問題と勤務状況における給与体系が取り上げられている。何で第三者委員会が今年の3月に出たのに、この1年間何も対応ができていないのか、その理由をまず教えてください。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 第三者委員会で指摘されました事項につきましては、内容的には理事会への密なる報告ですとか、相談とかといったようなことにつきましては実施できていま

す。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 第三者委員会の報告は、理事会との連携の改善だけではないですね。そちらの実質事務局に当たる部分ですけど、事務局長のお仕事としては理事会で決まったことを日常的に具体化するわけですから、その具体化の中で、例えば何か決まったことを理事会にきちんと提案するとか、そういう仕事を日常的にされているわけですよ。それが不十分だったよと、そもそも理事会を無視したよとか、給与規程とか条例といわないですね、何ていうんですか、決まり事を無視して実態を進めて、その後まずいと思って後から訂正したりとか、ちょっと悪意を感じるやり方があるということをお聞きしています。規定もないのにお金を払っちゃった。払ったことについて、後で帳尻を合わせるために規定を後からつけたとか、そういうことも含めてあります。そういう問題があることと、ハラスメントの問題というのは当然入っているわけです。ハラスメントの問題があるという認識はなかったんでしょうか。私は、弁護士がおいでになっていたときにそういう話をした覚えはあるんですけど、それは第三者委員会には指摘されてないので、するつもりはなかったと理解したらいいんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 第三者委員会におきましてのハラスメントということは、前回の第三者委員会での指摘はハラスメントという具体的な文言はなかったと感じています。そのことに対しましての指摘がなかったから、そういうことの認識が薄かったのかと言われると、現在のハラスメントの対応というのがここでは出てきたわけでございますけども、第三者委員会の指摘を受けた前回の報告書の中での指摘の中では、そういった対応というのは薄くなっていたのかなということは感じます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 何度か傍聴させていただいて、つくづく思うんですけど、理事会の理事の面々、ここにいる議選の光成委員長と遠藤部長以外、皆さんこの深刻さを理解してないですよ。皆さんと、これ読んでいただいているんでしょうか。印象深かったのは、山田会長が再三皆さんに大変御迷惑をかけていますっていう発言は理事会の中で何度か聞きました。御迷惑をかけているという理事長の挨拶しか理事の方は理解してないんじゃないですか。例えば、規定がないのにお金払っちゃったよって、後から帳尻を合わせるんで規定をつくったんだよって、そういう事実を知っています、理事の人。だから、ここで理事会との健全な関係の再構築が課題になっているわけですけど、1年間やってきて理事会の理事の方が現状について私は認

識してないなあと2回の傍聴で感じたんですけど、岩本事務局長、どこまで理事の方にこの第三者委員会の実情について理解していただく努力をされたんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 報告書に基づきましての説明はさせていただきました。それに基づきまして、理事の方がどれだけ御理解をしたかというところまでの確認はしていないのが現状でございます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 私が聞きたいのは、岩本事務局長が説明をしましたとおっしゃっている場面を私は見てないので、きっと私が見てないところで説明をされたんでしょう。

○委員長（光成良充君） それは去年ですね。

○委員（原田素代君） それを遠藤部長や光成委員長は御覧になって、十分説明しているなと思ってらっしゃるのか聞きたいんですが、駄目ですか。

○委員長（光成良充君） それじゃ、私の認識を言います。

去年の3月にハラスメントの実態調査が出まして、あのとき僕と谷名部長で出て説明を受けて聞いております。ただ、私たちはもともと知っているのものでその説明で十分理解はできますが、もともとの内容が分からない理事はどこまで理解されているのかというのは、私はちょっと疑問はありますけれども、そこまで詳しい説明ではなかったような、紙をばっとめくっての説明は受けております、それは。

○委員（原田素代君） だから、十分だとおっしゃるんですか。

○委員長（光成良充君） 私は十分ですよ。ただ、ほかの理事がどこまで理解しているかというのは僕も分かんないです。限られた時間の中の理事会で話をされておりますので、ただその部分は普通の説明よりも時間を余分にとって説明をされたという記憶はあります。

○委員（原田素代君） ありがとうございます。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（大森進次君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 大森委員。

○委員（大森進次君） 岩本事務局長にお聞きするんですけど、事務局長はもう今のところへ行かれて何年になるんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 6年目に入りました。

○委員（大森進次君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 大森委員。

○委員（大森進次君） 6年間見てきていただいた中で、先ほども言った半数の方が辞めている状況とかそこら辺を含めて、事務局次長と話をするときとか、そういう話はなかったんでしょうか。

それと、今までずっと黙って聞かせてもらってたんですけど、何か壁があるみたいで本当のことをほんまにしゃべっていかないと、今さっき原田委員が言われたように腐っているっていうふうに行くと、社協は続きませんよ。私はそう思いますけど、これから新しいことをきちっとやっていくということであれば、もう少し踏み入った形の中で話を進めていってもらわないと、社協として成り立っていかないような気がして、もう心配でなりません。そういったことを含めて、やっぱりいいことはいい、悪いことは悪いできちっとうみを出していかないと、今まで何十人て辞めていった人の話を聞いたり、現場の声を聞きますと、もう情けないっていうしかないですし、新しい組織に変えていかにやいけないんじゃないかなというふうに私は思います。そこら辺はどう思われますか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 先ほども申しましたけども、社会福祉協議会は地域の人のための福祉活動をする団体でございます。そういった組織を維持することは絶対に必要だという認識を持っております。そのためにどういったようなことが必要なのかということを考えていって、社協の継続というのを第一に考えていきたいと思っております。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（鼻岡美保君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 鼻岡委員。

○委員（鼻岡美保君） 私は、あまり事情はよく分からないわけなんですけれども、お話を聞いて、やっぱり赤磐市としてもいろんな業務を、社協が半官半民の団体でありますし、委託して順調な運営、潤滑な運営をしていただけたという信頼の下に依頼をされてきたんだと思うんです。それで、内情聞くと、大森委員も言われましたように大変不安があるわけなんです。もともと、私も新人議員なんで経過はよく分からないんですけど、だんだんに委託してきて、内情としてもいろいろ問題もありますけど、やっぱり仕事がたくさんになり過ぎて十分に機能でき切れてないからこういうことになったのか、そんなふうに思えるので、行政としてもすごい責任があるのではないかと思うんです。だから、是正するというのも必要ですけど、やっぱり市としても何でもかんでも社協に任せていたら大丈夫と、何とかなるとか、そういうふうな考えを変えなきゃいけないのかなというふうに今お話聞いてて思いました。感想ですけど、そういうことを思いました。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 4月17日は、市から会長宛ての文書は具体的な要望が1、2、3と出でて、5月10日までにもらう予定ということで。

今日の段階ではまだあれですよ、準備ができてないということですね。

○委員長（光成良充君） まだ、はい。ただ、その1個前の3月29日付の社協の山田会長から友實市長宛てに出されている回答書の1番にパワーハラスメントについてというところで回答がされておりますけども、そこの部分については内容がお知りになりたい部分があるんなら、お聞きしてもいいのかなと思います。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 5月10日に求めている中身にもあるわけですけども、これは至急にやるという前提だと思いますけど、理事会で了解を得たらもう早急に立ち上がるんですね、この委員会というのは。どのぐらいの……。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） パワーハラスメントの第三者委員会でございますけども、本会の組織の事務といたしまして、まず補正予算を行政と同じようにつくるわけでございますけども、こちらを4月30日の理事会で御承認いただいた後に、予算となりますと、今度は評議員会を開催して承認していただく必要がございます。5月20日ぐらいに評議員会をして、補正予算の承認をいただきたいと考えております。それからあと、岡山弁護士会のほうへ委員の推薦をかけるわけでございますけども、この推薦会が毎月1回行われているというふうに聞いておりますので、そこで推薦依頼をして弁護士会からの推薦がいただけた後に、その委員になられた弁護士の方と相談しながら業務のほうを進めていきますので、弁護士が決まっておおよそ2か月ぐらいでこういった調査は済むのではないかというふうな認識でおります。これは4月30日の理事会でも報告させていただきたいと思っております。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 確認ですけど、これは今回出たこのハラスメントのことについて調査をする委員会なんですか、それともハラスメント対策室という常設したものになるんですか、どちらですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） こちらのほうも、理事会のほうへお諮りする内容ではございますけ

ども、ハラスメントの委員会、実態を調べるっていう調査をお願いする委員会と考えています。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） むしろ単発で、今回の第三者委員会のように問題がこれだけありますと、これを調査しましょうと、調査結果終わり、じゃ終わります、解散、そういうことですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） ハラスメントの第三者委員会がどこまでのことをやっていただけるのかというのも、その担当弁護士の方とのお話し合いになろうかと思えますけども、まずは実態調査、それから後それが認められましたら、今後の在り方についての提言も踏まえていただきたいと思っております。したがって、今後の相談窓口を継続していくかどうかというのはこの次の段階の施策になろうかと思えます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） それじゃあ困りますよね。ましてや、管理職の方がハラスメントについての認識が随分違うので、要するに恒常的、だからそれは市にお聞きになったらいいんじゃないですか。総務課の下に常設でハラスメントの対策室が市にあるわけですから、必要に応じて委員に招集をかけて対応しています、検討事案が出た時点でその都度都度。だから、単発の第三者委員会で調査しました、はい終わりじゃ困りますよ、職員は。今後は、きちんとそういうレクチャー受けて勉強された専門の方が相談窓口において、その方がいろいろ対応して下さるっていう安心感がなかったら、職員はこの結果が白黒が裁かただけで何の解決にもならない。これは、必ず市から学んで常設の対策室を設けていくべきだと思いますが、御検討いただけないですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） このハラスメントの第三者委員会を行うわけでございますけども、それを受けて、どういったようなことを行えばいいかという内容につきましては、理事会のほうへお諮りして進めていきたいと思えます。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

僕から言わせてもらっていいですか。

〔委員長交代〕

○副委員長（永徳省二君） 光成委員長。

○委員長（光成良充君） 先ほどの分、原田委員のあれに続きますけど、山田会長名で友實市長に出されたパワーハラスメントの部分なんですけど、今時間的なものをお聞きすると、早くて8月から9月に結果が出てくるのかなというような形になるんですかね。理事会で言えばいいのかなと思うんですけど、理事会の前にもちょっとお話をしとけばいいのかなと思うんでいいんですけど、会長は専決処分の権限を持っておりますよね。これは専決ではできないんですか。もう会長の専決で早急に費用と弁護士を含む調査委員会の設置を、会長がもう専決でぱぱっと決めて早急に進めて早く結果を出して、この結果について今原田委員が言われたような常設のハラスメントの対策室とかを決めていくようにしたほうがいいのかと感覚的には思っているんです。専決処分というのがどの部分まで社会福祉協議会の会長の権限が及ぶのか分からないんですけども、そういったことはできないのでしょうか。

○副委員長（永徳省二君） 答弁願います。

○参考人（岩本武明君） 副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 社会福祉協議会会長の専決事項につきましての規定もございませうけども、予算を伴うものに関しまして限られた中での専決案件になりますので、今回のこの案件につきましては専決案件には該当しないと認識いたしております。

○委員長（光成良充君） 分かりました。

もう一点よろしいですか。

○副委員長（永徳省二君） 光成委員長。

○委員長（光成良充君） この弁護士を含む調査委員会の設置っていうのは、この調査委員会は弁護士だけで進められるのか、それとも社会福祉協議会の職員、それから以前から私は理事会でも話をさせてもらっているんですけど、赤磐市の職員、ハラスメント対策室の室長とかがいらっしゃって、その方を入れての話をするのか、その辺の考えはどうなんでしょうか。

○参考人（岩本武明君） 副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） パワーハラスメント委員会の構成メンバーにつきましては、選任された弁護士の方と相談させていただきまして決定させていただきたいと思っております。ただ、やはり独立した第三者委員会ということでございませうので、社会福祉協議会からは切り離れた組織にするべきであるとは考えております。

○委員長（光成良充君） 副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 光成委員長。

○委員長（光成良充君） ということは、市からの出向というか、ハラスメント対策室関係の方も当然入らないというふうに考えてよろしいんですか。

○参考人（岩本武明君） 副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） そこの人選に当たりましては先ほど申しましたとおり、弁護士の方と相談して、どういった方が適任であるかということを協議して決めていきたいと考えております。

○委員長（光成良充君） 分かりました。

○副委員長（永徳省二君） よろしいですか。

○委員長（光成良充君） はい。

○副委員長（永徳省二君） 代わります。

〔委員長交代〕

○委員長（光成良充君） 他にないようですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（光成良充君） ないようですので、パワーハラスメント実態調査アンケート結果についてはここで終わりたいと思います。

では、次のその他の調査に必要な事項についてということで、皆さんから質疑を受けたいと思いますが、よろしいですか。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 今、手元に社会福祉法人赤磐市社会福祉協議会職員給与規程を平成27年12月15日付の分を手元に頂いたんです。今回、3番の定年後の給与についてが問題になっていますけれども、この定年後、事務局次長がどんどん給料が上がっていているというのはこのどこに明記されているのか、教えてください。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） お手元にお配りいたしました資料の3ページ、第16条にございます昇給の基準第2項でございます。こちらのほうの文中に60歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて在職する職員に関する前項の規定の適用については、同項中4号給とあるのは1号給とするという、これに基づきまして1号給ずつ昇給することとさせていただいております。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） この第16条第2項は60歳に達した以降は現役のときよりも上がるという規定ですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 永徳副委員長の質問にお答えしたいと思いますけども、通常は4号給上がるものが先ほど言いました60歳に達した日以降におきましては1号給ということで、金額的には下がる内容になります。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 井本事務局次長も下がっておられるんですか。上がっているって聞いているんですけど、実際には下がっているんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 上がっている、下がっているというお話でございますけども、昇給幅は下がっています。60歳のときから上がっているのかというと、上がっています。1号給ずつ上がっています。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 本来、赤磐市の職員なんかは、60歳定年になったときに大体60歳の給料の7割掛けぐらいになりますよって聞いています。例えば、700万円もらっている人だったら、490万円、500万円弱ぐらいに60歳以降は下がりますよと聞いていたんですが、井本事務局次長は7割掛けにならずに、上がっていると聞いていたんですが、そこは事実なのかどうかというのと、今言ったその基準はどここの給与規程に記入されているのか、教えてください。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 先ほど、永徳副委員長の御質問にありました、どこの給与規程と言われるのが先ほど言いました本会の第16条の第2項にあります。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） もう一度、すみません、詳しく私に分かるように御説明いただけますでしょうか。

○委員長（光成良充君） 質問が分かってらっしゃらないのかなと、ですよ。

○副委員長（永徳省二君） 6ページの第5章に第33条、赤磐市の給与等に改定が生じた場合は、各基準を参考として会長が専決することができますとか、第34条にこの規定に定めるほか、必要な事項は赤磐市の定める関係条例、規則等を参考に、いわゆる社協の給与規程は赤磐市の給与規程に準じているということをお聞きするんですけども、本来は60歳になれば、今まで例えば700万円もらっていた人が約7割掛けになって490万円ぐらいに給料は下がって61歳以降は勤められるというふうにお聞きしております。ところが、井本事務局次長に関しては

下がらずに、その700万円がそこからまた何か上がっているというふうに聞いているんですけど、これは私の言っていることは間違いですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 本会の規程ですと、60歳に達した以降も1号ずつは昇給する規定となっておりますので、60歳定年時に比べると、7割ではなくて1号給ずつ上がっている運用でございます。

○副委員長（永徳省二君） 7割になっているんですね、一旦。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 7割にはなっておりません。

○副委員長（永徳省二君） なってないですよ。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 7割になってないんですよ。言ったとおり、60歳になっても今までどおりの給料に対して、さらに上がっていると、1号給上がっているということなんです。それはどこに書いてあるんですか。給与規程のどこに明記されているんですか、教えてください。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 先ほど、永徳副委員長の御質問にございました、どこに1号給ずつ上がっているのかといいますのが、先ほど言いました第16条第2項の規定に記載させていただいております。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長が聞いているのは、7割掛けにならずに、そのままの給料で60歳以降1号ずつ上がる。だから、1号ずつ上がるのはこの第16条第2項で規定されているんですけど、給料がそのままというのはどこの規程になるんですかということ聞かれている。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 今の岩本事務局長の話からいうと、もう職員全員60歳になっても、そこからどんどん1号ずつ給料は上がると、全員上がるということですよ。じゃないでしょという話を聞きたいです。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 本会の職員給与規程では、60歳になっても7割になるという規程は設

けておりません。したがって、55歳に達した日は本来4号給上がるべきところを2号給上がって、60歳を超えたら4号給のところは1号給になるというこの規定が本会の規程でございます。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 要は、これは全員に適用されるというふうに考えていいんですね、60歳を迎えた方全員に。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 本会の規程でございますけども、定年につきましては給与規程ではなくて就業規則というものがございまして、そちらのほうへ定めさせていただいております。給与につきましては、60歳を超えて在職している職員につきましては、全員にこの規程が現在のところ適用されているものでございます。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） そしたら、その就業規則で、本来は60歳定年を迎えると、7割掛けになりますよということが書いてあるんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 就業規則そのものは本会に勤務する職員の勤務時間並びに休日等の規程で定めているものでございまして、職員の給与に関する規程につきましては職員給与規程、こちらのほうで定めているものでございます。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 職員給与規程の中に、そしたら60歳以降は給料が7割になりますよということが書いてあるんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 職員の給与に関する規程につきましては、この職員給与規程に定めているだけでございます。

○委員（鼻岡美保君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 鼻岡委員。

○委員（鼻岡美保君） そしたら、7割規程なんですけれども、そういう規程がないということかなと思うんですが、第33条、第34条には赤磐市の定める関係条例に準ずるということにな

っているんですが、これって矛盾するんじゃないんですか。その辺の見解をお聞きしたいんですが。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 第5章の雑則につきましては、必要が生じた場合には準じて会長が専決することができるということを第33条の専決のところで決めさせていただいております。したがって、本会での参考にして会長が定めるべきだということがありましたら、市に準じて改正を行わせていただいとという状況でございます。したがって、定年に対しての7割の市に準じた役職定年制度とかっていうものは導入していないのが今の社協の給与でございます。

○委員（鼻岡美保君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 鼻岡委員。

○委員（鼻岡美保君） ずっと附則で規則改定をされているんですけども、記憶があるかどうか分かんないんですけど、この第16条第2項についてはいつ決められたんでしょうか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 先ほどの鼻岡委員の質問でございますけども、いつ変えたか、明確な資料を今手元にないのでお答えはできません。

○委員（鼻岡美保君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 鼻岡委員。

○委員（鼻岡美保君） ということは、もう平成時代に出来上がっていたというふうな事務局長の認識なんでしょうか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 確認をさせていただかないと、御返事ができないということでございます。

○委員（鼻岡美保君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 鼻岡委員。

○委員（鼻岡美保君） いや、だからまだ令和は6年目ですから、それより前なのかどうかぐらいは覚えているんじゃないかなと思ってお聞きしているんです。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 申し訳ございませんが、いつの改正かということはお答えする資料が今のところないので申し訳ございません。

- 委員（原田素代君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 原田委員。
- 委員（原田素代君） 就業規則には、定年は何歳になっているんですか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 定年は60歳となっております。ただし、会長が必要と認めた場合にあっては、5年間の延長ができるという規定となっております。
- 委員（原田素代君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 原田委員。
- 委員（原田素代君） 私が聞いたのは、井本事務局次長御自分が60歳を過ぎたときに、残る前提で65歳まで延長できるということを追加したというふうに聞いているので、井本事務局次長のお年がそのきっかけになったと聞いておりますが、そういう話は聞いてないですか。ですから、恐らく四、五年前じゃないでしょうか。もう65歳になられるでしょう。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 話を聞いているかということでございますけども、ちょっとその記憶はございません。
- 委員（原田素代君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 原田委員。
- 委員（原田素代君） そうすると、あくまで65歳になったら定年退職になると思っていいんですか。それとも、さらにその時点で会長が必要性を認めた場合、さらに何年かごとに延長される可能性があるんでしょうか、今の社協の規則は。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 原田委員の御質問にお答えします。
- 現在の規則では、65歳でもう退職と、65歳でもう定年ということになります。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。
- 副委員長（永徳省二君） 赤磐市の就業規則では、60歳定年になって、定年が延長になる方の基準っていったらあれなんですけど、例えば弁護士資格があるとか、公認会計士の資格があるとか、税理士の資格があるとか、そういう資格がある方は定年延長になるケースがあるというふうには聞いているんですけれども、井本事務局次長はそういう資格はお持ちなんですか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。

- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 本会の場合におきましては、有資格者、こういった資格を持っていれば定年延長するという定めではなく、会長が必要と認めたものにつきましては定年延長することができるという定めにしておりますので、有資格者、無資格者は関係ないと思います。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。
- 副委員長（永徳省二君） 有資格者以外にどのような理由で定年延長されたのか、教えてください。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 会長が本会運営上必要であると認めた職員に対して、延長をさせていただいたという認識でおります。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。
- 副委員長（永徳省二君） その理由を教えてください。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 現在、本会の井本が行っている事務を行える職員が現在のところいないというのも理由の一つだと思っております。
- 副委員長（永徳省二君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 永徳副委員長。
- 副委員長（永徳省二君） その仕事を岩本事務局長は代行できませんか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） とても私ができるような仕事ではないと認識いたしております。
- 委員（鼻岡美保君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 鼻岡委員。
- 委員（鼻岡美保君） 第16条第2項に対応する職員として、今対象となっている人以外に何名ぐらいそのまま昇給されている方がおられるか、教えていただきたいんですが。ですから、この規程に適用する人はたくさんおられるわけでしょう。60歳過ぎても仕事を続けてもらいたいというか、そういう人が何人おられるのか、お聞きしたいんです。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） この職員給与規程は、本会に勤務する正職員の方に対応する規程で

ございますので、現在のところの職員の数でいきますと、正職員が45名いたというふうに記憶しております。

○委員長（光成良充君） この第16条第2項の60歳に達した日以降におけるという部分を適用する職員は何名ですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 60歳以降の職員は1名です。

○委員長（光成良充君） 1人、その人だけ。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 60歳に達している職員は本会の場合は1名でございます。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 令和6年1月に給与表の改定をされていますよね。令和6年1月に出したということは、令和5年3月の第三者委員会の報告が出て、理事会で改善していこうという議論が出た後に出てきたものなんだろうが、さっき永徳副委員長が大変こだわって御質問されていた赤磐市に準ずるという点では、ここは準じていないのではないかと指摘が令和6年の段階で、そこをしんしゃくしないでこういう形で第16条第2項のように決めたということについて、議会のほうとしては疑念を感じるんですけど、それについて岩本事務局長はどう思われますか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） これは、令和6年1月、附則の下から2つ目の令和5年12月1日から施行する。ただし、第7条の規定の改正は令和6年1月1日から施行するとさせていただきます。第7条の規定と申しますのが、今回の資料の中での1ページ、給料表のみを改正をさせていただきましたのが令和5年12月1日、ただし第7条の改正は1月1日から施行するというものがございますので、この令和6年1月、令和5年12月に改正したのは給料表を市に合わせた改正のみを行わせていただいたという改正になります。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） ということは、第16条第2項ほどの段階で、さっきの押し問答ですね。いつ変わったか分かんない。ここの附則の中のどこかで変わっているけど、いつかは分かんないということですね。

- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 原田委員御指摘のとおりでございます、いつ変わったかはちょっと記憶にございませんので、申し訳ございません。
- 委員（原田素代君） はい、分かりました。
- 委員長（光成良充君） 他にございませんか。
- 委員（原田素代君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 原田委員。
- 委員（原田素代君） この給与費表の問題からちょっと離れますが、出勤簿のことです。時間外手当、残業代の未払いのところがこちらからの指摘の中にも入っているわけですが、こういう表が出てきまして、この表は何の意味かという、出勤簿の改ざんの指示についてということで職員のほうから訴えが出ました。土日出勤が生じ、振替休日を取得する場合、出勤簿上では土日に働いていないように見せる指示が出されています。別件資料の5月については、課長から土日に働いている部分を修正するように指示がありましたということで、ここに修正箇所が矢印で出ていて、出勤簿を改ざんされている訴えでございますが、これについてはどういうふうに御存じなんでしょうか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 出勤簿の改ざんにつきましては、私の中での認識はございません。
- 委員（原田素代君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 原田委員。
- 委員（原田素代君） この管理者は誰ですか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 管理者は、それぞれの課に出勤簿は配っておりますので、それぞれの所属長が管理を行っています。
- 委員（原田素代君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 原田委員。
- 委員（原田素代君） 所属長の権限について、岩本事務局長は把握されてなきゃいけないよね。だから、一部の課にこういう事実があるということを岩本事務局長は初めてお聞きになりましたか。
- 参考人（岩本武明君） 委員長。
- 委員長（光成良充君） 岩本事務局長。
- 参考人（岩本武明君） 出勤簿の修正、変更、訂正、そういうお話はそういった指示が行わ

れていたというのは今初めて聞きました。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） あわせて、残業代の申請の件ですが、これはもう何人もの方から、上司に申告して上司が認めたら残業になるというシステムですよね。上司に訴えられないんだそうです。なぜかという、あなたの仕事が遅いから、あなたの能力に問題があるから仕事が残っちゃったのだから、今さら残業はないでしょっていうことらしいんです。だけど、現場の人はこういうふうにおっしゃるんです。社協というのは、地域の方たちと日常的な信頼関係を築いた仕事しています。今、私がこの仕事やらないで帰ったら、あした以降、地域の方たちとの信頼関係の仕事ができなくなります。それを思えば、今日ここで残業しなくてはなりません。だけれども、上司の方は私を責めます。そうすると、私は黙って申告しないで残業をします。この訴えについてはどう思われますか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） ただいま原田委員から御指摘ありましたように、時間外勤務の命令は所属長の権限として与えています。したがって、その判断というのはあくまでその所属長がこれは時間外になるのか、ならないのかということの判断をしています。ただ、その中の内容によって、これは時間外ですよ、いやこれはもう時間外じゃないなというふうな判断はその上司が、所属長が命令を出しているルールになっておりますので、そういった形で運用しています。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 現場はそうじゃないわけです、職員は。そこに対して、管理者としての能力が疑われますよね、そのずれは。結局、暗黙のうちに残業代未払い行為になります。ハラスメントともいえます。そういうことが散見できるんです。いかがですか。それでも、上司が的確に判断しているので大丈夫ですとおっしゃいますか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 議会のほうからの御指摘でもございました残業代の未払いについてという案件でございますけども、この残業代の未払いというのは実は私の中で2種類ございまして、今の原田委員が言われた残業を命令しない、しなくてさせている。または、組織の中で残業の申請が上がってきて、時間外の命令簿が総務課に来たときに、総務課でこれはもう払えないとやってやった未払いなのかっていうことが分からなかったんですけども、今の御質問で分かりました。現場からの声だということが分かりました。先ほど言いましたように、こうい

った残業の扱いというのは上司が、直属の所属長が認めるかどうかにつきましてはあくまで現場の状況を判断しての命令、時間外っていうものが命令になりますから、判断をつけてやるべきものだと思いますけども、そこの中の内容につきましては、現場の職員が一番よく知っている、所属長が一番よく分かっているわけですので、やはりその判断というのはきちっとするように、基準はございません、はっきり言って。どの事業だったら残業を認めて、どれだったら駄目とかっていたりするのも特にはございませんので、そこは的確に現場で判断していただくようお願いするしかないのかなと思います。あくまで、命令が出ないと、残業代というものは支払いができないというシステムになっていますので、あくまで残業の命令を受けているのが原則でございます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） これこそが腐っているって職員が嘆くことの一つの大きな要因だと思うんです。要するに、管理者に管理能力がないから。例えば、市役所でもありました。これ以上は残業させませんよっていう閾値があって、そこまでの中でやってもらいますと。だけど、それ以上になっちゃったら、残業代はもう勘弁してくださいっていうやり取りって通常あるんです。今の岩本事務局長から言わせれば、それ以前の話ですよ。基準値があって、それまでは認めるけど、それ以上は認めないじゃなくて、管理者が個別の対応、個別にどういうふうに評価するかで決まるんです。てことは、管理者の能力が試されているんです。分かりますか。現場じゃなくて、管理者が現場の人がこれやっとかないと、あした地元の方たちにこういう準備をしていることができなくなるので、これ今じゃなきゃ駄目なんですって訴えたところで、いやいや要らないって言ったときにポテンシャル下がりますよね、職員。地域の皆さんと、一生懸命信頼関係を築いて福祉をやっている人たちからすれば、自分の上司が、いやこれやらないと駄目なんですよつつつても、いやいやしなくていいって、でもみんな頑張ってるんです。それを横目で見て、どう思ってるんでしょうね。そういう場面を見てないんですか。

参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 私のところに来るのは、最終的な集計表みたいな形のものが上がってきます。もちろん、それには時間外の命令の状況も添付された書類がついているわけですけども、それを発出するまでのことにつきましては、やはり先ほど申しましたように、それぞれの所属長のところで命令の発出をしておりますので、その詳しい内容のところまでは私のほうでは確認はできておりません。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 予算か何かの枠があって、残業代はこれ以上あんだのとこの課とか部

はしちや駄目よっていう、そういう指導系列はあるんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） あくまで、予算はそれぞれの課で立てております。それに基づきましての執行も行っていますけども、予算が足りなくなるからするとかっていうふうなことは、その指示もした覚えもないところでございます。私のほうから指示をしたようなことはな
い
い
です。

○委員（鼻岡美保君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 鼻岡委員。

○委員（鼻岡美保君） 残業代のことに口差し挟むようで悪いんですけど、残業は仕事ができない職員の場合、あとに引きます。そういう場合は、残業代が出るということはその人の仕事ができない人のほうが給料をたくさん頂くということになります。それはけしからんという考えだろうけれども、それも含めて仕事が必要だったら残業賃を出すというのが基本だと思うんです。宅急便なんかの場合は、時間、日にちまでに届けなきゃいけないから、5時までに配れなかったら別の担当者に渡すわけなんです。そうやって業務を維持する。そのための責任者というか、割り振りをする人というのがいるんですけど、誰もいなくて仕事が遅いから、出来切らなかつたらあとは自前でやりなさいというのは、労働協約上違反になるんじゃないかなと思うんですが、何かその辺の認識に仕事ができないほうが悪いというふうに事務局長の対応を聞いていると、事務局長が指示しているわけじゃないんだと思うんですけど、現場の対応がそのようになっているというのに矛盾があってパワハラ状態にもなるのかなというふうには思ったんですけど、たくさん業務があるので、なかなか全部正しく運用されているかどうかというのはあるけど、最低やっぱり残業賃は払ってほしい。そうやって、仕事を身につけていって、だんだんてきぱきとやれるような職員になって成長していただくというのが筋なんじゃないかなと思うんです。私の感想というか、意見なんですけど、ちょっとその辺は聞いた範囲では問題があるなと思います。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 今回の会長からの回答文書を読むと、例えば山田会長から来た中に、残業代の不払いの問題が指摘されておりますが、何て書いてあるかつつたら、なお時間外勤務命令簿に基づく時間外勤務手当についての未払いは確認されていませんが、今後の調査委員会等の調査の中で確認されれば適切に対応します。これじゃ解決しないんです。現場の人が訴えていることをつかまないと、これはあくまで現場の課長が、いや要らないって言ったらそれだけです。確認されません。その人がただ働きしていても、課長が認めてないんだったら残業代

未払いにはならないわけです。ここで、そういうふうに改善しますと書いてあるけど、これじゃ本質的な改善じゃないです。だから、求められたら、じゃ何時間残業してくださいって、そうやって申請を上げてもらって、だから岩本事務局長がおっしゃったように総務が払ってないのかという話ではなくて、現場の人が求めたことをきちんと酌み上げてないことにメスを入れないと困るんです。これじゃ何の解決にもなりません。だから、会長から出てきている改善のことも、文書をなぞっているだけで現場の声が全然反映されてない。パワハラについてもそうですけど、そこをどう切り込むのかっていう意識を持ってやる何か外部の力が要るんじゃないかなって思うんですけど、困ります、そういうことをされたら。してもらったほうがいいと思いませんか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） ありがとうございます。

今後、こちらのほうで本会会長から市長宛てにお渡しした回答書の中にございますように、3点の項目につきまして今後進めていくわけではございますけども、先ほどの現場の声が反映されていない残業代につきましては、そういったような御意見もお聞きしたわけでございますから、今後の委員会等の調査の中でも、そういった点も踏まえて進めていったらどうかというふうなことを理事会へお諮りして進めていきたいと思っております。

○委員長（光成良充君） いいですか。他にございますか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 次のところに行っていていいですか、定年後の給与のこと。

○委員長（光成良充君） ああ、どうぞ。今、一遍にやっていますけど。

○委員（原田素代君） 委員長も前おっしゃっていたと思うんですけど、基本給の底上げというか、見直しがあったほうがこの給与規程の中でも奨励何とか金とかあります。名目で臨時の手当が第29条奨励手当、第28条処遇改善手当、その上に特別手当というのがあるんですけど、こういうその年の財務というか、会計の様子によって幾らか余裕があるから出してあげますよとか、今年はちょっと赤字だから出せませんよっていう不安定な給与体制ではなく、基本の給与が生活できるレベルできちっと決まっているってということを見直していただきたいと私は要望するのですが、今回のこの令和6年1月の給与規程は皆さん納得して、これなら安心して暮らせるっていう規程になってんですか。その判断が私は分からない。そうしてほしいという。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） ただいま御指摘がございましたように、職員が安心して生活してい

って地域福祉の仕事を続けていくってということが職員にとって、本会にとっても非常に大事な
ことであるとの認識は持っています。ただし、本会の経営状況によっては支給ができたり、で
きなかつたりするというようなことも給与規程の中に書かれてはいますけども、本会自体が介
護の現場も持っています。決算のほうは、まだちょっと最終の詰めにはなっていますけども、や
はりそういったような現場も赤字になってまいります。そうしますと、本会全体としての収支
も悪化してきますので、ただそういったことが悪化したからといって、基本給的なところは下
げるわけにもまいりませんし、あくまでそういったような赤字があろうとも維持ができるとい
うのか、職員が安心して生活できるっていう体制は整えていく必要があるという認識ではいま
す。ただ、介護の現場というのがやはり相当の赤字になりますので、そこら辺の収支のことも
見ながら、今回のお手元にお配りいたしました給与規程の中でも、本会の経営状況によっては
支給するあるいは支給しないというふうな規程も入っている手当もございます。ただ、そうい
ったようなものはできるだけ出せるというのか、職員が安心して生活できるような給与水準は
保っていきたいということで運営を続けていきたいと思っております。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 令和6年1月1日に改定した給与規程は、職員が満足できるように改
定されたものなんですか。それとも、まだこれから改定しなきゃいけないと思っているのか、
そこだけ聞きたい。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 令和6年1月1日から施行したのは、あくまで給与表だけでござい
ますので、そのほかのことにつきましては、市に準じるというのも変ではございますけども、
全体的な見直しはする必要があると認識、給与規程に関しての見直しをする必要はあるとい
う認識ではあります。

○委員（原田素代君） 分かりました。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

鼻岡委員。

○委員（鼻岡美保君） 15ページの有料道路の計算なんですけども、最後のページです。上か
ら2段目、利用する有料道路の利用料金、片道の額の掛ける2掛ける21日分を支給するという
意味なんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 先ほどの有料道路の通行料につきましては、利用する有料道路の利
用の片道の往復分として掛ける2、それから月で21日分を支給するという規定でござい
ます。

○委員（鼻岡美保君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 鼻岡委員。

○委員（鼻岡美保君） 有料道路が通勤に便利という場合は、誰でもできるわけですか。できるだけ近くに住んでくださったほうが望ましいわけですけど、この辺の規定はどういうふうに内規か何かで決められているんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 通勤手当につきましては、本会の先ほどの皆様方のお手元にあります給与規程の第26条というところに定めているわけでございますけども、こちらのほうに關しましては利用されている職員、高速有料道路を使用されている職員に關しましては支給をしております。ただし、あくまで有料道路を利用している職員に対してですので、当然のことながら有料道路を利用しない職員に対して支給は行われていません。限られた職員になろうかと思っておりますけども、こういったような形での時間の短縮が図られて職務のストレスが少しでも減るような形で考えて制定したものでございます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 60キロメートル以上というのが基準なんですか。これは別ですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 先ほど有料道路の上の60キロメートル以上というのは、左ページの14ページの(3)の最後の1行になっておりますので、自家用車、原動機付自転車、自転車等の通勤距離の片道の数字でございます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） そしたら、高速道路は使ってしまった者勝ちなわけですか。基準がないんですか。何か今までは対象になっていたけど、今回基準が変わったので対象外になったということを聞きましたけど、どこに基準があるんですか。使いましたって言ったら、もう払うんですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 高速道路の使用に当たりましては、本会も職員からの通勤届が出てまいります。それに基づきまして、高速道を通勤で使うよという申請がありましたら、それに基づきまして高速道路の利用料金を支払っております。ですから、今の段階、今現時点ではそういった高速道路を利用する職員に対して高速道路通行料金を出してない職員はいないと思

ます。全員出しています。

○委員（原田素代君）　　そうですか。

○参考人（岩本武明君）　　はい。

○委員（原田素代君）　　分かりました。

○委員長（光成良充君）　　不足した話を聞いていいですか。

〔委員長交代〕

○副委員長（永徳省二君）　　光成委員長。

○委員長（光成良充君）　　有料道路の利用料金ですけれども、通勤距離に規定はないんですか。

○参考人（岩本武明君）　　副委員長。

○副委員長（永徳省二君）　　岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君）　　現在の本会の給与規程におきましては、通勤の距離に基づきます有料道路の使用の制限はしておりません。

○副委員長（永徳省二君）　　いいですか。

○委員長（光成良充君）　　はい。それともう一点、いいですか。

○副委員長（永徳省二君）　　光成委員長。

○委員長（光成良充君）　　多分、これ記入間違いかなと思うんですけど、5ページの奨励手当、第29条ですよ。15ページの別表12、これ第28条関係になっている、これ第29条関係ですよ。

僕からは以上です。

○副委員長（永徳省二君）　　よろしいですか。

○委員長（光成良充君）　　はい。

○副委員長（永徳省二君）　　代わります。

〔委員長交代〕

○委員長（光成良充君）　　他にございませんか。

○委員（原田素代君）　　委員長。

○委員長（光成良充君）　　原田委員。

○委員（原田素代君）　　財務のことなんですが、一つには会計を担ってらっしゃる事務局次長は勤続何年になりますか。岩本事務局長の前だから分かりませんか。

○参考人（岩本武明君）　　委員長。

○委員長（光成良充君）　　岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君）　　何年かというお尋ねに対しては明確な回答できませんけども、山陽町時代からお勤めだったと思います。

○委員（原田素代君）　　委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） そうすると、最低20年は、20年プラス山陽町時代ということですが、これは一般論です。一般論ですが、会計を担う人が長年にわたって替わらずにそこで仕事を続けるというのは不適切だというふうに、監査なんかではそういうふうに見ます。大体人事異動させます。ですけど、うちの場合は恐らく20年プラス何十年かのベテランといえばベテランですけど、通常の常識では会計事務を預かる人がそうやって長いこといることは好ましくないというふうに言われています。その上でですけれども、会計について非常におかしいと思っている職員の声も幾つか出てきているんです。例えば、市からの受託事業の職員、生活支援課の職員が年度途中で離職して人員補充がなされていない場合でも、年度末の決算では当初予算の分がそのまま全部使われたということでゼロ円決算となっていたそうですが、要するに市から来ている人件費ですから、人が途中でやめて補充もないまま年度末決算で全額人件費を使いましたという会計決算になっていることが見受けられましたという指摘がありましたけど、そういう事例っていうのはお分かりですか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 本会は、市からの補助金とか委託とか様々な業務を受けていますけども、それに伴いまして精算業務というのが当然会計の最後にはあるわけでございます。それに対しまして、補助金や委託金の残額があれば当然お返しをするのが当然なんですけど、させていただいた精算を行っているところでございます。ただ、今のそれぞれの精算に当たりましては市の担当部局と話ししながらやらせていただいていると思いますが、ただ先ほどの生活支援課のゼロ円というところ、人がいなくとも、その業務を取りあえず別の職員がやるとかっというふうなことをしないと多分現場が回らないと思うので、そういったような人件費も含めたもののゼロ円精算させていただいたのかなというふうに感じます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） ちょっとそれはあまりにもひどい話で、じゃその人に2人分の人件費をあげていたというならいいですよ。人数掛ける金額で積算した予算が出ているんです。余ったら返るんです。だから、人がなくなっていたら、職員は当然カバーします。だけど、人数としては10人いるうちの9人でやってきたんなら、そのうちの10分の1は返んなきゃいけないものをゼロ円にしちゃったら、これは会計上大きな問題です。そういうことがあっちゃいけないと思いますよね。どうですか、岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 補助金なり、委託金の精算業務につきましては、きちっとルールに

のっとしてするべきものであるという認識であります。

○委員（原田素代君） ちなみに、令和4年度にそういう事実があったという職員からの指摘がございました。

○委員長（光成良充君） 他にございませんか。

○参考人（岩本武明君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 岩本事務局長。

○参考人（岩本武明君） 先ほどの井本に関しての長年会計に関わっているという御指摘がございましたけども、事務局次長もそれぞれ介護保険課の現場ですとか、老人センターとかいろいろしていますので、実際の会計業務に関わっているのが勤務しての年数とは違うということをお理解いただきたいと思います。具体的に何年かという年数は分かりませんが、ずっとではないです。

○委員長（光成良充君） 大丈夫よね、今の。大丈夫ですか、皆さん、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（光成良充君） それでは、協議事項の2番目のその他の調査に必要な事項についてを終了させていただきたいと思います。

では、参考人の岩本事務局長におかれましては、長時間ありがとうございました。御退席いただいて結構です。お疲れさまでした。

〔参考人 岩本武明君 退場〕

○委員長（光成良充君） 次に、その他に入りますけれども、委員の皆様から何かございますか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（光成良充君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 一言総括をさせていただくと、本当に不勉強な管理者だと思いました。彼は6年目だということですがけれども、最低6年間、管理職として研修も受けてないでしょうし、まさに今一番肝腎なハラスメント問題も、全くあれは研修を受けている発言ではないと思います。それで、問題意識が字面上で解決させるという報告書しか書面として伝わらず、私がもう本当に皆さんからの涙ながらの訴えをほんの一部しかお伝えできないわけですがけれども、そこに共感ができないような管理者が、彼もとの管理者も、彼自身もそうですけれども、そういう現状であれば、これはどうやったら解決しないじゃないか。だから想像できるんですよ。パワーハラスメントの調査委員会なるものを作って、この18件か何かを白と黒つけて、じゃあこれから直しましょうねっていう、そんなことで解決しないです。職員は、風穴を開けてくれつつつてんです。だから、私が一番心配しているのは理事会の理事たちの認識がこういうことを知っていただいて、あなたたちが理事会としての重責を持っていて、その理事として改善しなきゃ駄目だよねっていうところに物事を運んでいかなきゃいけないっていうことと、

ちょこっと言ったけど、外部からの圧力で、外部からの介入でそういった問題をつまびらかにすることで、力づくで解決するっていう方法もあるんです。だから、どれがいいかというのは、今後全協で議論したほうがいいと思うんですけど、とにかく手を突っ込んでいただきたいことに岩本事務局長は無関心であったということを非常に感じました。

○委員長（光成良充君） 他にございますか。ないですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（光成良充君） ないようですので、以上をもちまして厚生文教常任委員会を閉会したいと思います。

皆様方には長時間にわたり大変お疲れさまでした。

それでは、本日の委員会を閉会いたします。

午後0時6分 閉会